

第45回 コツブムシ



皆さんはダンゴムシという小さな虫をご存じでしょうか。虫と言っても昆虫ではなく節足動物の等脚類（ワラジムシ目）というグループに属しています。一番よく知られているのが、オカダンゴムシという種類で、庭の植木鉢の下や溜まった落ち葉の中などから見つかります。つかまえると、腹を内側にしてほぼ球形に丸まるので、子供の頃、つかまえて遊んだ人も多いでしょう。実はこのオカダンゴムシは、もともと日本にはいなかった動物で明治時代に侵入した外来種のように、現在は広く日本中で見られますので帰化種として扱われています。

ところで今日の表題のコツブムシという生きものは、聞き馴染みのない名前で見たともないという方も多いと思いますが、いわば水の中のダンゴムシといった生きものです。オカダンゴムシと同じように丸まって身を守る性質があります。浅い川底などに生息していますが、オカダンゴムシよりやや小さく、目立たないためあまり知れていません。最近、このコツブムシの一種が、内灘砂丘から湧き出している水路で見つかりました。砂丘に湧き水があることもあまり知られていませんが、内灘砂丘の裾の部分から水が湧き出していて、河北潟の縁に沿って何か所も見つけることができます。このうち、かほく市大崎にある清水（しょうず）といわれている湧き水由来の水路でチョウセンコツブムシという種が生息していることが分かりました（福原ほか、2016）。チョウセンコツブムシは、普通は川の下流域において見つかりますので、このような水源に近い場所で見つかったのはちょっとした驚きでした。河北潟の周辺の生きものには、まだまだよく知られていないことがあるようです。

コツブムシ類は、もともと海に住んでいるものが多く、海岸の潮間帯などでは割とよく見られます。コツブムシ類を含む等脚類をみても海産種が多いのですが、陸に進出したものも多く、海岸の岩場によく見られるフナムシや、もっと内陸に進出したワラジムシなどがいます。また深海に生息するものもいて、最近有名になったダイオウグソクムシは、この仲間の中で最大のものです。謎の多いダイオウグソクムシは、水族館などで人気もあり、お菓子やぬいぐるみになっていたりもします。もしかしたら河北潟の周辺で密かに暮らしているコツブムシも、いつの日か注目されることもあるかもしれません。（文：高橋 久）